

のリンク」が考えられる。

- a. 「ルネッサンスの森・ビオトープ」 散策→「地域交流再生センター」での交流→コンサートホール→コミュニティティカフェーで地域再生や高島平について交流する
- b. 国際会議場→パーティーホール→展望レストラン・ラウンジ→ホテル宿泊→板橋の物産・観光フロア

### (3) 社会的機能に注目した空間のリンク

TRTにおける空間のリンク」という視点からは、従来、部署別、分野別、学科目毎に分断されてきた社会的な機能がバリアを越えて「一体化している」様子が見えてくる。

いくつか例を挙げておこう。

- a. 「ルネッサンスの森」や「ビオトープ」を造り保全する作業は、専門家の指導があれば青少年、元気な高齢者などで充分可能であろう。こうした作業は、自然に親しむ理科や保健の学習であると同時に、多世代共住という政策目標を共有する社会形成学習でもある。そればかりか、高齢者・児童にとっては健康増進活動であり、ノーマライゼーションに則った福祉の享受となる。また、地元のすべての市民にとっては自然環境の創造でもあるわけです。ここでは「教育、都市社会づくり、保健、高齢者及び児童福祉、環境」が見事に一体化している様子を読み取れよう。
- b. タワー内の大学（院）連合が「地域再生交流センター」と連携して活動すれば、日本中が直面している地域再生という生きた課題にそくして「学び、研究、国内外の交流、経済、芸術」を一体的に発展させることも十分可能である。

## 【4 ルネッサンスタワーに新機軸を盛り込む】

「ルネッサンスタワーには環境保全や社会的セキュリティの視点から、次のような新機軸を盛り込みたい。

### (1) 住民出資によるソーラーパネルの設置

南ドイツ・フライブルク市のサッカー場屋上に設置されたソーラーパネルが市民出資で成功している事例はあまりにも有名である。

### (2) 住民支援型ホテル

社会的セキュリティの視点から、「介護家族」がホテルで休息をとれるように、行政等が支援する。超高齢化社会にあって最も厳しい問題の一つは、「要支援者を支援する家族の負担」である。ホテルでの休息は、介護疲れに悩む家族に対する大きな支えになりうる。この意味で、タワーホテルは「住民支援型」という新しいタイプのホテルとして、今後の地域再生活動の柱の一つになりうるだろう。

### (3) 地域セキュリティ型タワー

同じく社会的セキュリティの視点から、震災等の災害時に、ホテルの空き室や教育ゾーンのワーキングルームを緊急避難場所に使えるような行政措置を講ずる。

---

以上、人とモノに生命を付与する高島平ルネッサンスタウン（TRT）の仕掛けについて簡単に概観してきました。

ここから言えることは、高島七小跡地利用に関する本提言は、高島平という一地域の再生を深める上で、恐らく二度とないビッグチャンスであるばかりか、自力での再生が難しい全国各地の希望のモデルとしての意義を持つ、と言うことです。タワービルの規模の如何を問わず、「タワービル+広場+森林緑地」という空間編成の原は変わりません。5,000坪程度の敷地であれば、どの市町村でも確保できない面積がありません。TRT を一つのモデルとして、各地域が自然、文・歴史などの資源を動員し、「地域社会力」を競い合う。日本がいまいちど輝くことは決して夢ではありません。

しかし、タワービルの規模を含め、本TRT構想が活かされるべきか否かは、地元高島平の市民、板橋区民、東京都民、ひいては広く国民の民意によらなければなりません。わたくしは、この自明の原点を再度確認しこの提言を締めくくりたいと思います。

以上